

善徳

七三四一〇〇〇四

広島市南区宇品神田四一十一一八

善徳寺

電話 〇八二二五一六〇二九

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

しかし、年末からの、コロナの感染再拡大のため、法座が思うように開けない状態になっています。当山御正忌法要も、今月開催予定でしたが、やむなく中止させていただきます。

さて、報恩講法要を当山では十一月に行いましたが、報恩講法要の折には、内陣の荘厳が通常とは少し違います。

向かって左側の余間には、普段は七高僧の軸が掛かっているのですが、報恩講法要の時には親鸞聖人の絵伝をかけます。絵伝とは、親鸞聖人の伝記を、絵であらわしたものです。

もともとは、『親鸞伝絵』と言って、絵と詞書きが交互にかいてある絵巻物でした。

親鸞聖人の曾孫にあたる、覚如上人が、親鸞聖人の三十三回忌の翌年に、親鸞聖人の遺徳を後世まで伝えるように『親鸞伝絵』という絵巻物を作られたのです。

改訂を加えられながら、四十七年かけて完成しました。しかし、巻物の形では大勢の人が一度に見にくいので、絵だけを掛け軸にして「御絵伝」と呼び、詞書きを『御伝鈔』として、蓮如上人の頃から報恩講法要の際に読み上げるようになりました。

当山では、余間が狭いので一幅のものを掛けています。四幅が一般的で、ご本山では特別に八幅のものが掛けてあります。何幅のものでも、場面の数

は二十四で、絵は下から上へと見て行きます。

場面と場面の間は、やすり霞という、雲の形をした模様で仕切られています。

ここから、それぞれの絵の説明を簡単に行きましよう。

第一図は、親鸞聖人が九才で、伯父の日野範綱に連れられて、出家される場面です。大勢の従者や牛車が描かれ、貴族の出身だということが表されています。

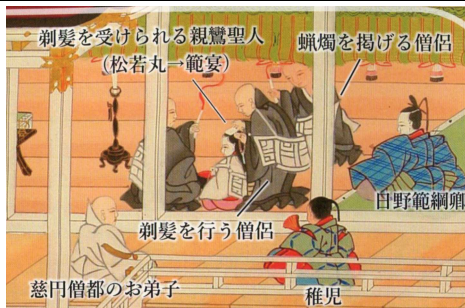
第二図で、慈円僧都に對面なされたところ(画面左側)、得度式の様子(画面右側)が描かれています。

慈円僧都は、高位の僧のみ着られる緋色の衣です。



第二図左 出家学道

慈円僧都が、「もう夜遅いので明日にしましょう」と言われましたが、松若丸様が、「明日ありと思つ心のあだ桜、夜半に嵐のふかぬものは」と詠われて、真夜中に得度式をされたという場面です。範



第二図右側 出家学道

行事案内

春季永代経法要

四月二十日(火) 昼席 夜席
二十一日(水) 朝席 昼席
講師 島根県六日市町 誓立寺 朋澤智弘 先生

尚、今後の新型コロナウイルスの感染状況によつては、延期又は中止します

お知らせ

今月二十二日に予定していましたが御正忌法要は、コロナの感染拡大予防のため、中止します。藤先生には、三月の婦人会大会法要に来ていただくことになりました

婦人会大会法要

三月十八日(木) 昼席 一時より勤行

講師 中島町 善福寺 藤哲哉 先生

十七日(水) 午後一時よりおみぎをします。

お手すきの方はお手伝い下さい。

第三図は、親鸞聖人二九才で、法然聖人のもとを訪ねられた場面です。白袈裟姿の親鸞聖人が、吉水の法然聖人を尋ねられ、対面されています。



第三図 吉水入室

第四図は、親鸞聖人が、法然聖人を訪ねられる前に、「六角堂に籠られて、観音菩薩から夢告を受けられる場面です。比叡山を下りるといふことは、よほどの決心でしたが、夢の中に観音菩薩が現れて、「もしあなたが妻帯するならば私が相手となり、生涯付き添い、臨終には極楽へ導こう。又この内容を多くの人に聞かせよ」と言われ、東の人々にそれを告げたところで目が覚められました。



第四図 六角夢想

第五図は、親鸞聖人の晩年のお弟子であった連位房が見た夢の様子です。観音菩薩の化身である聖徳太子が親鸞聖人を礼拝されています。そのことは、親鸞聖人が阿弥陀如来の化身であることを示しています。



第五図 連位夢想

第六図は、親鸞聖人が法然聖人から、「選択本願念仏集」の書写と、真影の図画を許された場面です。法然聖人の教えを間違ひなく受け継ぐ者には許されぬ書写と真影の図画を、入門してわずか四年の親鸞聖人が許されたということは、大変稀なことでした。



第六図 選択付属

第七図は、法然聖人の元で勉強されていた時の事です。親鸞聖人が法然聖人の許しを得て、お弟子方に浄土往生について質問をしました。



第七図 信行両座

「本願を信する時に往生が決まるのか（信不退）念仏を励むことによって往生が決まるのか（行不退）どちらかの座にお着き下さい」と。殆どのお弟子方は行不退につき、信不退にいたしたのは親鸞聖人他四人だけでした。縁側にいるのは、遅れて駆けつけた熊谷直実で、迷うことなく信の座に着きました。そして、最後に法然聖人が信の座にお着きになりました。

以上、簡単に第七図まで説明しました。次号で続きを解説します。今後「給伝を目にする機会がありましたら、一度じっくりご覧になって下さい。

なお、この絵と解説は、「てんぷるらいつ」というグループの発行された『親鸞聖人御絵伝』あなたに届く絵ものがたり』から転載・参照させていただきました。

敬 弔

お浄土に参られた方を謹んでお知らせ致します。

- 令和二年 十月三十日寂 翠五丁目 行年九十二才
- 安森 茂様 比治山本町 行年四十三才
- 十二月六日 村本宗一様 神田五丁目 行年八十七才
- 十二月十六日寂 西川光子様 神田五丁目 行年八十六才
- 十二月十九日寂 中尾 貢様 行年八十八才
- 十二月二十八日寂 吉島新町 行年百五才
- 吉岡トミ子様 行年百五才

郵便番号 七三四一〇〇〇四
 広島市南区宇品神田四丁目十一八 宗教法人 善徳寺
 もみじ銀行宇品支店(普) 008・0686234

「善徳」年七回発行
 護持会員には毎回配布
 ホームページ「宇品善徳寺」